

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.1 - 12)

件名	パルスカラムの計装配管における詰まり	
事象の概要	<p>(1) 発生場所: 機器 分離建屋: パルスカラム</p> <p>(2) 発生の状況 パルスカラムの運転中</p> <p>(3) 概要 パルスカラム(抽出塔)にて界面検知用の計装配管が析出物により詰まり、パルスカラムの界面レベルのコントロールが乱れ</p> <p style="text-align: center;">* 他の建屋も含め同種の機器においても、同様な事象の発生が予想される。</p>	
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 分離建屋の塔槽類廃ガス処理設備が稼働しているパルスカラム内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 抽出塔内界面検知用計装配管の詰まりが生じた場合、界面計が異常を検知して警報を発信し抽出塔を停止することができるため、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 計装配管の詰まり除去の復旧作業に当たっては、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 界面レベル異常に伴い、抽出工程を停止する必要があるが、詰まり除去のための短期の停止であることから、詰まり除去後、除染ウラン供給運転に切り替えて運転を再開できる。したがって、他工程への影響は生じない。ただし、詰まり除去に時間を要する場合は、抽出塔内のウランフラッシュアウト等を行い、抽出工程を停止するため、工程内に設置している一時的な貯留槽の残液量で他工程の運転継続の可否を判断する。</p>	
対応の概要	<p>(1) 計装配管の詰まりであることを確認する。</p> <p>(2) 定められた保守作業手順に従って、計装配管から計装用圧縮空気を供給する。</p> <p>(3) それでも除去できない場合は、定められた保守作業手順に従って、計装配管から硝酸等の除染液を流し、詰まりを除去する。</p>	
公表区分	毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載)	
対応区分	<p>(a) 運転継続しながら復旧</p> <p>(b) 運転システムを切り替えて復旧</p> <p>(c) 当該機器を停止して復旧</p> <p>(d) 当該設備を停止して復旧</p> <p>(e) 影響範囲の設備を停止</p>	<p>国際評価尺度 (INES) のレベル</p> <p style="text-align: center;">0以下 1 2 3 4 5 6 7</p> <p style="text-align: center;">(レベル2以下は工場外への影響はない)</p> <p style="text-align: center;">放射線物質の外部放出 工場外への影響</p> <p>日本原燃による評価: レベル0以下</p> <p style="text-align: center;">放射線物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p style="text-align: center;">運転時故障からの逸脱等 多重防護の劣化</p>

